

都市再生整備計画

ななえちやうとうげした
七飯町峠下地区

ほつかいどう ななえちやう
北海道 七飯町

平成28年1月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	七飯町	地区名	峠下地区	面積	271 ha
計画期間	平成 28 年度 ~ 平成 32 年度	交付期間	平成 28 年度 ~ 平成 32 年度				

目標 【大目標】: 北海道新幹線新駅北口となる峠下地区を中心に、魅力的で賑わい溢れる持続可能なまちづくり ●北海道の新たな玄関口となる北海道新幹線「新函館北斗駅」北口エリアに、既存の観光施設も含めた広域観光の拠点として「道の駅」並びに情報発信機能を整備することにより、当町が持ち合わせる観光資源、地元生産物等に更なる付加価値を付け、町全体の観光客入込数を増やす。 ●道内外からの来場者に向け、当町の魅力及び知名度向上を図り、地域全体が活気に溢れる継続的なまちづくりのために、従前から行われている町主体のイベント回数を増やすことで参加者数の増加を目指す。

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 道の駅建設を予定している峠下地区は、北海道新幹線（平成28年3月開業予定）の新函館北斗駅から近距離（概ね3km、車で約5分程度）にあるほか、北海道縦貫自動車道七飯IC（仮称）の建設予定地であり、北海道のゲートウェイ、交通の要衝として発展が期待される地域であることから、町では、「第4次七飯町総合計画（H18～H27）」の中で当地区を中心とした道路・交通ネットワークの整備、それに伴う商業の振興を掲げ、同地区内に工業団地を整備するなどの事業を行ってきた。当該地区は、準都市計画区域の指定を受け、農業振興地域との秩序ある発展を進めてきており、周辺地区の将来的な土地利用、道路利用構想を示した「新幹線と高速道路網を活用する基本計画（H21）」や、今回の対象としている峠下地区を包含した「藤城峠下地区振興計画（H25）」を策定し、当地区はもとより、道南地域の活性化に繋がるような各種計画を重点的に推進することとしている。また、町全域の将来的観光振興に寄与する「七飯町観光振興計画（H27）」も策定済みである。
--

課題 ●北海道新幹線の開業効果を最大限に発揮するため、来道客向けの北海道ならではの「PR型観光施設」の設置が望まれているほか、道南地域（渡島管内）の道の駅としては、森町の「You遊もり」を最後に、道央方面から函館市内に至るまでの国道5号沿いに無いことから、自動車利用者の休憩施設、レンタカー利用者への観光案内施設の設置が望まれている。当施設ではこれらの機能整備は勿論のこと、西洋式農法にいち早く取り組んだ文化及び歴史（七飯町は、明治3年にプロシア（現ドイツ）人、R. ガルトネルが 洋種農作物の栽培を行ったことが、当町農業の契機となり、日本における洋式農法を基盤とした近代農業発祥の歴史を持つ町です。）を来場者へPRする機能も計画している。このことから当町が持ち合わせる観光資源、地元生産物等に更なる付加価値戦略を構築することで、道内外の観光客に対しその魅力提供を行うことが求められる。 ●少子高齢化による人口減少が著しいほか、小規模商店等といった地域商業環境は大型店進出の影響等により購買力流出が著しい状況であることから、新たな雇用創出・消費拡大戦略等が必要不可欠となっている。このことから、「道の駅」整備により道内外からの来場者との交流を機に、地域全体が活気に溢れるなど、そのきっかけづくりとなり得る施策が必要である。
--

将来ビジョン（中長期） 七飯町第5次総合計画（平成28年度～平成37年度） ・豊富な自然環境と観光資源を有する本地域の特性を踏まえ、地域住民及び道内外の観光客に向けた知名度向上への寄与。また、良質な雇用創出の確保や住民の地域活性化に対する意識改革等これらに繋がる好循環作用を生み出す施策「七飯町道の駅基本計画」に基づく施設整備及び運営を行い賑わいのあるまちづくりと、住民の地域交流を支援するため心休まる憩いの場となる環境づくりを目指す。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
①観光入込客数	延べ人/年	道の駅効果による観光入込客数	国定公園を保有するにふさわしい街並み整備や交流を育む拠点形成により、町内への滞在性を向上させるなど、年間入込客数の10%増加を目指す。	1,954,000	H26	2,149,400	H32
②イベント参加者数	延べ人/年	道の駅効果による町内各種イベント参加者数	施設整備に伴い、町内各種イベントに係る参加者の20%増加を目指す。	75,863	H26	91,000	H32

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>基本方針①: インフラ整備等による交通アクセスの利便性を活かした広域観光と道路情報発信の拠点となる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道の新たな玄関口となる北海道新幹線新函館北斗駅(平成28年3月開業予定)の近傍で、大沼国定公園や異国情緒あふれる函館など、「魅力ある道南地域の広域観光及び交通情報提供を備えたゲートウェイ機能を持ち合わせた道の駅」を整備する。 また、豊富な自然環境と観光資源を有する本地域の特性を踏まえ、地域住民及び道内外の観光客に向けた知名度向上(情報発信)への寄与、更には、良質な雇用創出の確保や住民の地域活性化に対する意識改革等これらに繋がる好循環作用を生み出す環境を道の駅に付随する施策として整備する。 ・道の駅来場者が円滑な施設利用を図ることができるよう、国道に接続する町道の整備を行い、通行車両の安全に配慮した対策を行う。 ・道の駅の存在意義を高めるとともに、道内外からの観光客が計画地区に滞留することから歓迎色強めるためにも、明るく賑わいある環境づくりを目指し高質化していく必要がある。また、道の駅のシンボルマーク等をペナント化し、設置できる多機能型の街路灯に整備する。 ・当該地区が北海道新幹線北口として当町の情報発信拠点としての位置付けを担うエリアであることから、町内の情報PRはもとより、道南広域への発信地として案内サイン(情報板)を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■高次都市施設/観光交流施設(道の駅) ■道路事業/町道改良事業(道の駅接続道路整備) ■高質空間形成施設/街路灯整備 ■地域生活基盤/案内サイン整備(情報板)
<p>基本方針②: 交流人口増加に伴い地場産提供にかかる施設機能の充実化と当町の歴史・文化を融合した計画地区を中心とした賑わいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間活力を導入し、道南の素材を生かした食材の提供や菓子作り体験工房を設置し、北海道らしさをPRする。 また、近代農業(西洋式農法)発祥の地としての起源を振り返ると共に、当町の歴史・文化を融合した、賑わいと魅力ある計画地区を創出し、町全体への誘導化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■関連事業/テナントミックス施設整備事業、農産物直売所 ・道南食材を活用した直売所、レストラン及びミュージアム機能等
<p>その他</p> <p>事業期間終了後のまちづくりの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交通アクセスの利便性を活かした地域のシンボリック施設となりうる道の駅等の設置により、交流人口の拡大が図れる。 ○人口減少が進む中、高齢者の方が住み慣れた地域で、世代間を超えた交流等により今後も安心して暮らせることができる。 また施設整備に伴い、各種イベント開催を通じて当町特産品及び観光施設としての知名度向上など、町の賑わいが持続され町全体が再び活気に満ち溢れたものになる。 	

